

令和2年度 指定管理施設運営状況評価表

1. 施設の概要

施設の名称	むつ市海と森ふれあい体験館		
指定管理者	団体名	特定非営利活動法人シェルフオレスト川内	
	代表者	理事長 内田征吾	
	所在地	むつ市川内町川内 477 番地	
指定期間	平成29年4月1日～令和3年3月31日（3年間）		
指定管理業務の概要	地域の海・山等の豊かな自然を活用した、地域住民の生涯学習の場及び地域を担っていく子供たちの総合学習の拠点であり、地域の伝統文化の情報発信に寄与することを目的とした施設である。設置目的を踏まえ地域の活性化を図る為、利便性を向上させる運営に取り組む		

2. 収支の状況 ※消費税及び地方消費税を含んだ額を計上すること。自主事業分は含まないこと。

※原則として他会計からの繰入金及び他会計への繰出金は含まないこと。

※人件費には、経常の指定管理業務にかかる人件費のみを記載し、臨時的な日雇い雇用などの賃金を含まないこと。

単位：千円

区 分	計 画 額 ①	実 績 額 ②	増 減 (②-①)
収 入 合 計 (A)	15,823	15,829	6
うち利用料金額	42	0	▲42
うち指定管理料	15,673	15,808	135
支 出 合 計 (B)	15,823	13,038	▲2,785
うち人件費	12,844	9,826	▲3,018
収支差 (A-B)	0	2,791	2,791
市への納入金	0	0	0
計画額と比較した実績額の増減理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた自主事業等が実施出来なかったことから、支出予定の人件費が削減された。		

3. 施設利用の状況

単位：人

	区 分	計 画 ①	実 績 ②	増 減 (②-①)
利用者数	指定管理	7,200	2,119	▲5,081
	自主事業	3,600	0	▲3,600
利用者の声とその対応状況 ※利用者アンケートの実施（有・無）				

4. 自主事業の実施状況

単位：人、千円

事 業 名	利 用 者 数	収 入	支 出
	0	0	0

5. 個別項目評価 ※指定管理者と市の所管課が評価（A：優良 B：適正 C：要改善）

評価基準 A（優良）：計画された業務水準を大きく超える独自の取組を実施するなど、特にめざましい成果があった。

B（適正）：計画された業務水準を概ね達成した。

C（要改善）：計画された業務水準を達成できなかった。

評価項目	自己評価	市の評価
(1) 施設設置目的に添ったサービス向上に関する取組み状況		
① 開館時間、休館日等を守り、施設利便性の確保に努めたか。	B	B
② 施設の使用許可、使用料減免等が適正、円滑に行われたか。	A	B
③ 利用者に対する接客マナー等、職員の勤務態度は適正だったか。	A	B
④ 利用者の意見を聴取し、それらを反映する取組みを行ったか。	B	B
(2) 利用促進に関する取組み状況		
① 施設利便性を高める努力を行い、効果が得られたか。	B	B
② 潜在的な利用者等に営業広報活動を行い、利用アピールをしたか。	A	A
③ 自主事業を企画・実施し、効果が得られたか。	B	C
(3) 効率性の向上に関する取組み状況		
① 施設管理経費を低減するための取組みを行い、効果があったか。	A	A
② 収入増を図るための取組みを行い、効果があったか。	A	B
③ 職員の資質・能力向上を図る取組みがされたか。	A	B
(4) 施設の適正な維持・管理に関する取組み状況		
① 施設の維持管理、運営に当たる人員配置は適正であったか。	A	B
② 設備・備品の維持管理及び修繕が適切に行われたか。	A	B
③ 労働関係法令等を遵守し、適正な管理を行ったか。	A	A
④ 利用料金の収受及び施設管理経費の支出は適正であったか。	B	B
(5) 平等利用、安全対策、危機管理等に関する取組み状況		
① 利用者が平等に利用できるよう施設利用情報提供に配慮したか。	A	B
② 日常の事故防止等の安全対策は適切であったか。	A	B
③ 防犯、防災対策等の危機管理体制は適切であったか。	A	A
④ 利用者の個人情報保護は徹底されていたか。	A	A

6. 指定管理者総合評価 ㊦自己評価をAとした項目の内容及びCとした項目の改善策を記載すること。

- ①コロナ禍において適切に感染予防に努めた。
- ②フィールド活動やガイド等、体験館を空ける時間もあり、利用者には不便をおかけした事は改善の必要がある。次年度は様々な補助事業も活用し、スタッフ確保・施設の利便性向上に努めたい。
- ③コロナ禍において活動が制限される中、次年度に向けての体制づくりやアクティビティの計画を立案できたのは良かったと思っている。次年度以降、楽しんでもらえる体験館を目指したい。

7. 市の所管課総合評価 ㊦市の評価をCとした項目についての指導内容も記載すること。

2013年から青森放送で放送してきた「むつわんだいすき」にむつ市海と森ふれあい体験館の館長である五十嵐氏が出演していたが、今回DVDとなり、陸奥湾沿岸の小学校に寄贈された。このことにより将来の利用者へのアピールとして評価できる。

その機運を的確に生かせるような自主事業を企画することより、利用者の増加に繋げることが大事だと考える。

コロナ禍のため自主事業未実施により人件費の支出が抑えられたことは好ましいが、自主事業等の活動がないということは、存在を忘れられることに繋がりがかねない。地域にとって気軽に参加できる施設を目指し、様々な補助事業等を活用することにより事業の活性化と収入の増加を目指すよう指導した。

コロナ禍では、新しい生活様式にあわせた対策を取りつつ利用者の落ち込みがないよう、出前講座などによりむつ市海と森ふれあい体験館の存在をPRしていくことが必要と考える。